



第10回スピーチ大会

＜真新しい挑戦＞

(1年 渡辺はるか)

「海は人生の生活に不可欠」皆さんはそんな言葉を聞きますか。また、考えたことがありますか。

私は、先週新生徒会のみんなと一緒に、東大で海洋教育の発表をしてきました。私ははじめ、東大と聞いた時、「東大って、本当に？」と半信半疑でした。そして一月から発表の準備が始まりました。5週間ほどしかない短い期間での勝負、今までやった海洋教育のネタを集めることから始まりました。そして、役を振って文を作



って...。部活の時間も資料づくりに終われる日々...。マングローブと海の関わりについて担当した私は、マングローブの研究をしている父の力を借りて原稿を作りポスターを作成しました。特にポスターをトントンたたいて森の木々を書く作業がとてみたいへんで、完成まで2週間かかりました。こうしてたくさんの時間を準備に割きました。そしてとうとう東大発表前日、忘れ物におびえながら船中を出発しました。すると私の不安は的中してしまったのです。上原港に着いた時、発表の大事な資料を収めていた箱がどこにもありません。送ってくれた絵美先生の車の荷台に忘れてしまっていたのです。先ゆく不安の中、いよいよ東京へ出発です。

東京駅に着くと、見上げると首が痛くなるほど高いビルがたくさんあって、都会にきたという感じがしました。一方、皇居はだだっ広く高い建物がなかったのも、私はホッとしました。

その翌日、いよいよ発表です。私は今まで2回ほど来たことがあったのですが、少し緊張しながら赤門をくぐりました。発表場所は赤門をくぐってすぐそこにありました。中に入ると、他の発表者の人たちが準備していて、大きな昆布を貼っていたり、パンフレットを置いている学校があり、興味深いものがたくさんありました。私たちと同じような取り組みをしている学校、観光スポットを紹介し、自分の町をアピールしていた学校、ういの殻の再利用をしようと染め物に挑戦している学校など、いろんな取り組みをしている学校があり、たくさんの情報を得られました。特に印象に残っているのが、最優秀賞を獲った学校でサケを呼び戻す取り組みをしている学校です。そこでは、サケが川に戻って来られるよう強いサケの稚魚を稚魚牧場という施設で育て、川の上流で放します。大きくなってまた上流に戻ってこれたサケは、川の流れに逆らえる強いサケになっているのです。それを量産するという発表でした。牧場というのがざん新で効率よく生産できる良いアイデアだと思います。

面白い発表を聞いているうちに、とうとう自分たちの発表が来ました。ポスターの前には20人程の人だけが見えて緊張しました。1回目、私が発表したあと、声が小さくて聞こえないという反省がありました。2回目は焦りましたが、しっかり声を出して発表することができました。

第二部は、安田講堂の中での講義でした。中はとてもきれいで、映画館みたいな赤いイスに天井は一部がガラス張りです。左右対称のその建物は、劇場のような感じでした。終わる頃には外はもう日が沈み、街頭やお店の明かりがとてもきれいでした。みんな5時間も話を聞いていたので、げっそり疲れていたけれど、やはり終わった達成感と開放感で自然と笑顔になりました。

今回の発表で、私たち以外に多く学校が海洋教育に取り組んでいることを知りました。そして、これからの船中の海洋教育のヒントになることもたくさんあり、とても良い経験でした。でも私は、ポスターセッションの時、1回目から声を出せていなかったことを後悔しています。これからも発表の場はたくさんあるので、発表に強くなりたいです。挑戦することは、勇気があるし、不安やたいへんさもあるけど、やり終わったあとに得られるものは大きいです。今回のチャレンジも準備に時間はかかったけど、やって良かったです。私たちの住んでいる西表の海は本当に美しいです。その美しさを何時までも私たちの手で保っていきたいと心から思います。

沃野



竹富町立
船浦中学校
学校便り
第41号

発行責任者
校長
仲田欣五

感じてきたことや風景が書かれていて聞きやすかったです。東大で僕も緊張したけど、絶対に良い発表だったと思います。特にはるかの発表のところは！これからも、僕も挑戦したいです。
(2年 末吉英星)

感じたことを言葉を選んで文にしている、とても聞きやすかったです。東大に3回も行ったっていうのはすごいなと思いました。スピーチお疲れ様でした。
(3年 大山史帆里)

話し方と文章作りがとても上手で伝わってきました。僕も発表の達成感を味わってみました。スピーチお疲れ様でした。
(1年 永井一ノ輔)

表現の仕方がとても良かったです。たとえば、首が痛くなるほどの高さなどの表現がおもしろかった。いつもよりは声が大きく、とても聞きやすかったです。どれだけたいへんだったのだと思った。スピーチお疲れ様でした。(1年 大城昊己)